

今月の逸品

NO.41 2018.12~2019.01



MUSEUM OF EDUCATION



日本門構集覧 (STYLES OF OLD JAPANESE GATES)

1890 (明治 23) 年
 画作印刷兼発行人 東京市京橋区出雲町老番地
 塚本岩三郎
 本紙 : 505 mm × 1290 mm

塚本岩三郎氏は明治から大正にかけて多くの掛図を自ら作画して刊行しており、明治 25 年には東京造画館を創設し、教育用図版を次々に制作している。明治時代にこの掛図を用いてどのような授業が行われたのか、少し想像してみたい。

日本では家格に応じて家のつくりが決められており、とくに門構えは厳密で、平安時代にはすでに身分に応じた門の形式が決まっていた。最上段の京都御所建礼門は最も格式が高い四脚門。本掛図の 2 段目は桜田門である。ここでは城特有の門のつくりを説明したい。城には一の門をくぐると枡形の空間があり、次に二の門があるという構造が多く見られる。この二重の門を枡形門といい、高麗門と櫓門が基本であり、桜田門も一の門が高麗門、二の門が櫓門となっている。したがって、本図に描かれているのは、桜田門の二の門のほうである。四段目に描かれている門は、東京大学本郷キャンパスの通称「赤門」と呼ばれている加賀藩・前田家の表門。門の左右に唐破風造りの番所があり、格式の高い門である。さらに朱塗りには、将軍家の姫君が嫁ぐときに迎えた門という意味がある。

京都御所建礼門

櫻田御門

国持諸侯江戸本邸之表門
 (遠慮謙遜シテ)

国持諸侯江戸本邸之表門
 (最モ権勢アリシ)

藩前田家之表門

五萬石以上諸侯簡略セシ江戸本邸表門

国持諸侯簡略セシ江戸本邸表門

五萬石以上諸侯之江戸本邸表門

拾萬石以上諸侯之江戸本邸表門

五萬石以上外様諸侯或ハ
 国持大名分家之江戸本邸表門

五萬石以下老萬石以上
 江戸本邸諸侯之表門